

永禄四年辛酉文化七年
庚午正当式百五拾回忌
高樹院尊靈式百五拾回御忌
之砌於尾高村源光時御

法事經營諸控 勝意

文化七年庚午正月廿六日

「白紙」

3

山遊永順庵主式百五拾回御忌
花雲妙榮禪尼來ル酉年式百
回御忌付此度一所取越致
法事經營度付菩提寺
尾高村源光寺和尚心光寺
逗留之節口子罷越致

4

對面右二靈江院号送号等
授被呉候様及挨拶候処其段
許容有之付右之通授与
有之事

5

永祿四年辛酉正月廿六日
高樹院山遊永順大禪定門
附たり於米子元祖道喜公祖母君也

慶長十九寅正月六日

蓮臺院花雲妙榮大禪定門

附たり於米子元祖道喜公祖母君也

式百回忌取越法事 文化七年正月

廿六日一所經營

6

右之通送号授与貰候付右
挨拶之ため去霜月源光時へ
參詣墓所余程埋り法名等

不分明^ニ付同所石工呼寄

墓所為□□今度授貰申

院号等深彫り記置事

7

付り 良右衛門様と参詣申^ニ付

源光時之進物下書顕ス

ゆば十本
松露□□

一 大谷藤兵衛儀近年筋目不正
縁組申^ニ付及儀絶罷在之所

元祖高樹院墓所新塔婆

建有之^ニ付源光寺へ相尋候処
藤兵衛より建申旨被申^ニ付筋造
之段及通達罷帰事

一 右一件藤兵衛重々不埒難捨置

□□^ニ及相談下地誂置候大工

積立取進之儀先ツ差留旁

藤兵衛法事執行筋違

之段源光寺へ申入置猶

本寺心光寺末次氏菩提寺

^ニ付内々物語有之^ニ付即日

9

源光時呼寄被申候、藤兵衛方へ

使僧を以塔婆取除之儀申入候

處藤兵衛不埒返答申^ニ付

猶心光寺より嚴敷詰矧^ニ付

藤兵衛より建候塔婆取除落

着申由、右^ニ付則源光時本寺

心光寺より為使僧西營被參今度

10

源光時藤兵衛より相頼候^ニハ

乍申當時不平御末□容易

法事致經營段重々源光時

大心得違□慈昨今藤兵衛手前

詰合右塔婆取除候間何卒

宥免致し吳候様挨拶被申就

ひれ□小五ツ茶酒料

其後源光時よりも手前
右塔婆取除候段挨拶

1 1

有之事、然ル上ハ此方必然も
致し已前之通大工細工之儀も
取懸候様申遣候事
無程正月廿六日も進度申候付
双方案内手紙差遣し候

左之通

1 2

末次彦左衛門 廿六日夕積進落之節
案内左之通
深田喜左衛門 村川市兵衛
野浪助次郎 内田五左衛門
須山孫右衛門 内田佐左衛門
右三軒也

右四軒か區別に近縁付尾高

1 3

源光時迄ヘ之案内

一心光寺和尚尾高源光寺請待

申事 附り

廿五日昼八ツ時當所出立駕籠人足遣候得共

天氣能付歩行被參候事

帰路ハ老僧之事故手前より

駕籠為持迎人越付其段も

及挨拶駕籠乗罷帰候事

1 4

一 廿五日昼八ツ時迄馳走賄方
忠右衛門・武五郎両人万端
申付残品無之送出私義も
末次氏同道而尾高ヘ参
事、珍敷天氣付道々慰
七ツ下刻源光寺参事
附たり安来之左助兼而心易參付
何角見繕參度申付則

1 5

同道之事

一 廿五日夕料具相備へ短夜

勤有之事

一 廿五日早朝参詣之人別

陶山源左衛門息重蔵

野浪助次郎息熊之丞

深田三郎衛門息次郎衛門

右三人

16

末次氏ハ前夕より参詣之事

一 廿六日朝五ツ時より法事始り

九ツ時前ニ相済

焼香 壱番 新五郎

武番 末次

参番 深田

四番 野浪

五番 陶山

右首尾能相済夫より墓所へ

参水をたむけ戻り

座敷へ通り非持差出次第

心光寺和尚

末次氏

源光寺和尚

深田氏

小僧

野浪氏

小僧

陶山氏

安来屋佐助も請待為致事

私

17

非持献立

さし三わさひ

ゆは

大根

皿 揚ふ

赤蒲

こんにゃく

香茸

海素麵

水豆腐

汁 椎茸
卷豆腐 くわん菜

坪
木くらけ
焼くり

御飯

木くらけ
焼くり
皮牛蒡
丁おろき

丁おろき

向詰 茶碗 セり ゆば

平皿 飛龍頭

香
草

三

香物味噌也
くわへ串

轤轤目

衣かけ牛蒡
塩つけ青茄子

水口段到来饅頭差出し申

右哈矣而
御茶
廿五日着夕

硯蓋 御酒

但

燒豆腐
皮牛蒡
御飯

平
丁子いも

香草
丁子
ふ

御酒
肴少々

猪口 ひたし 汁 椎茸
水菜 豆腐

廿六日朝獻立

水菜

木□□□□

青ミ

平 わらび焼寄生菴
干瓢香菴

御飯 小豆飯

右之通^ニ首尾能相濟

即刻和尚暇乞致皆々

2 1

退寺、心光寺和尚ハ駕籠^{ニ而}直致

帰寺、銘々共ハ式村觀音寺

杉原播磨寺森重公御菩提寺

^{ニ而}御墓所も有之^ニ付往古之由緒

思ひ出し觀音寺本堂上成山上^ニ

御墓有之^ニ付詣水をたむけ

夫より皆々同道^{ニ而}私宅へ罷帰候事

附たり 八幡村陶山義ハ同性出府中

^ニ付尾高村より直^ニ罷出申事

2 2

今度法事布施左之通

源光寺和尚へ 四拾目

心光寺和尚へ 廿匁

小僧兩人 六匁 但三分宛

源光寺墓所七話人

五人 拾匁 但式分当

通之小供當式分 但壹分宛

2 3

合七拾八匁

其外右法事^ニ付雜用銀

荒増左之通

御墓所造入用 卅六匁 但廿六匁

石工并^ニ

人夫 かつら

拾匁

右手間代

右御墓所へ石燈籠奉納^ニ付

拾七匁 但石工源兵衛相渡

外^ニ式匁 右石燈籠尾高村

取寄^ニ付候船賃

2 4

一 塔婆式本 但 高樹陰式百五十回忌

蓮臺院式百回忌

取越法事^{ニ付}

但 杉上四寸角式本代九匁

右塔婆けずり^ニ大工三日

作料 六匁外^ニ雜用式匁

合十七匁也

尾高村へ持運之諸色入用早々

左ニ書願候事、并^ニ手前に請遣

家來入用荒増如此

25

一 弐拾目

酒代

但

尾高村^{ニ而}

入用五本

其外手前^{ニ而}

^{ニ而}仕出之折

精進落客來

之節入用

一 三拾目

但

白米五斗計入用

尾高村において式斗三升計

其余手前^{ニ而}前後

之節入用

一 四拾目

但

法事前後調物

代

一 六匁五分

但

法事中御用

十三人之分

26

一 九匁式分

精進落し之衆
肴代

一 五匁

塩鯛 十一枚
焼物入用

一 弐拾三匁

高樹院

蓮臺院 二靈位牌代

ペ 弐百八拾三匁五分
外^ニ三匁半□□^ニ遣ス 滝□左□□新泊

右之通入用分事

尾高村小鷹村観音寺へ参り

盛重公由緒帳有之候ハ、一所ニ

27

申度、式村之者を以住主へ御尋候得共、當時虫ニ而不分明之由

二而不及一覽之事、夫より

帰路晴天ニ付道々慰快

七ツ下刻則私宅へ罷帰事、

精進落獻立

皿 さしミ

鯛

口はね

汁

椎

茸

大くまミ

大根

生和布

海素麵

備前海苔

28

薄くすつくり

平皿 しの竹輪

きんなん

御飯

干瓢

香茸

皮牛蒡

山いも

ふき

29

御酒

肴 種々手軽る略す

客来

但 村川氏ハ竹島由緒ニ付案内致ス

鹿島當時□□ニ□持并者内

村川市兵衛

末次彦右衛門

深田三郎右衛門

鹿嶋次郎左衛門

口兵助

30

右之通精進落し客來

同廿六日夜八ツ時頃迄賑々敷

致し首尾相済候事

右客來七話人

大屋宗右衛門

千秋 取持人

同 喜兵衛

安来や虎助

伊藤伊兵衛

同 新蔵

榎 伊兵衛

向 甚右衛門

後 五郎

万歳 右人數へも不取敢仕度

差出候事

3 1

(白紙)

文化七年庚午正月廿九日

相認置也

於米府へ引越之元祖

道喜公より七代之孫

大谷新九郎藤原勝意

三十一歳之春也

高樹院尊靈よりハ

九代目也